

平成29年度
恵庭市教育委員会点検評価報告書



平成30年12月

恵庭市教育委員会

目 次

点検と評価の概要	3
点検と評価の実施方法	4
平成28年度恵庭市教育委員会点検・評価票	
1 教育総務課	
市内小中学校ホームページ統一システム運用	5
地区会館整備事業の推進	5
地区会館防音機能復旧事業の推進	6
小・中学校改造事業の推進	6
小・中学校防音機能復旧事業の推進	7
2 学校教育課	
学校改善プランに基づく授業の改善・充実	8
体力運動能力の向上実践事業	8
「まちなか学級」の推進	9
道徳の教科化に向けた推進	9
学校運営協議会制度の推進	10
ヒューマン・コミュニケーション授業の推進	10
3 教育支援課	
子どもたちの見守り活動事業	11
ネットトラブル未然防止事業	11
4 学校給食センター	
食物アレルギー対応指針に基づく安全安心な学校給食の対応	12
学齢期における食育の推進	13
5 社会教育課	
コミュニティ・スクール事業	14
青少年育成事業の推進	14
理科の学習体験の推進	15
通学合宿等の推進	15
郷土芸能の学習体験の推進	16

6	読書推進課	
	ブックステーションの整備	17
	小中学校における図書整備の充実	17
	学校図書館活動の推進及び充実	18
7	郷土資料館	
	地域の遺跡・施設等の教材化と活用	19
	郷土資料館事業の充実	19
	平成29年度恵庭市教育委員会点検評価一覧	20

点検と評価の概要

1 経緯

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」という。）が改正され、改正後の第27条（※）第1項において、「教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（中略）の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。」（参考1）と新たに規定されました。

※平成27年4月1日改正により第26条へ条ずれ

2 目的

地教行法第26条の点検及び評価（以下「点検と評価」という。）は、教育委員会が自ら立てた基本方針に沿って、具体的な教育行政が執行されているかどうかについて点検と評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することにより市民に対する説明責任を果たすとともに、効果的で市民に信頼される教育行政を推進することを目的としています。

3 点検と評価の対象

本年度の点検評価においては、平成28年度の教育行政執行方針及び重点推進項目に係る主要な施策・事業の実施結果を対象として点検と評価を実施します。

4 学識経験者の知見の活用

地教行法第26条2項（参考2）の規定による学識経験者の知見の活用については、教育委員会の事務の点検と評価の客観性を確保する観点から、教育委員会が行った点検と評価について、教育に関し学識経験を有する3名から意見等を聴取する機会を設けることにしました。

意見提出者（3名；敬称略）

点検評価委員 田 島 与 久（北海道文教大学人間科学部こども発達学科 教授）
同 上 結 城 健 介（恵庭市社会教育委員）
同 上 長 岡 秀 明（学校教育有識者）

※参考条文

地方教育行政の組織及び運営に関する法律抜粋

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

（参考1）第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

（参考2）2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

点検評価の実施方法

- 1 本年度の点検評価においては、「平成29年の教育行政執行方針」及び「重点推進項目」に係る主要な施策・事業の実施結果を対象として点検と評価を行いました。
また、各施策・事業の「教育推進プログラム」における位置づけも確認しながら評価を行いました。

- 2 事業の評価の判断基準
必要性・効率性・有効性・公平性・優先性等の観点から、その達成度を総合的に判断して評価し4段階でランク付けを行いました。

A：想定した以上に達成・想定した以上に順調に進捗
B：想定どおり達成・概ね順調に進捗
C：一定の成果があがっているが、一部については想定どおり達成できなかった
進捗にやや遅れが見られる
D：想定どおりには達成できなかった・想定したとおりには進捗していない

平成30年度(29年度事業)恵庭市教育委員会点検評価報告書

1 継続		所管課 【 教育総務課 】	
事業名(施策)		自己評価	
市内小中学校ホームページ統一システム運用		計画の達成状況	
第5期総合計画での区分		導入後約2年で、最多の学校は27万件以上のアクセス数がある。	
基本目標	4.人が育ち文化育むまち	更新頻度が低い学校に対しては、随時聞き取りを行い、ホームページでの情報発信の趣旨を説明し、更新が頻繁な学校を参考にイメージをつかんでもらうようにした。	
目 標	16.子どもの自立成長を促す学校教育	現在は市内全校で少なくとも月に1回は更新されている。	
教育推進プログラム(施策の方向)		課題及び今後の取り組み	
地域と学校が一体となった教育活動の推進		更新頻度が低い学校に対し、行事のタイミングでの更新など、教職員への過度な負担にならない程度での情報発信を呼びかけていく。	
事業(施策)概要・計画(目標)		外部評価委員の意見	
平成28年8月、市内全校に導入している「校務支援システム」の機能の一つであるホームページ作成支援機能を全校に導入した。 投稿の際は専門的な知識が必要ないことから、これまでパソコンの得意な先生に集中していたホームページ作成・情報発信の負担を軽減。 各校が情報を発信することで、保護者だけではなく地域の方にも学校を身近に感じてもらうきっかけとする。		学校のHPは今日、地域や家庭への情報発信の必要性が増しており、どの先生も作成に関与できる統一システムにより、閲覧しやすくなった点が評価できます。指導によって、各学校とも更新頻度が増し、アクセス数の増加が見られたのは更に好ましい。	
予算額(千円)	決算額(千円)		
632	632		
自己評価	外部評価		
B	B		

2 継続		所管課 【 教育総務課 】	
事業名(施策)		自己評価	
地区会館整備事業の推進		計画の達成状況	
第5期総合計画での区分		今年度は、恵み野会館屋上防水改修工事および市民会館大ホール吊物設備改修工事を実施した。	
基本目標	4.人が育ち文化育むまち	工事施工に当たっては事故も無く、計画通り完成に至った。	
目 標	17.手を取り合い創造性を育む文化芸術	課題及び今後の取り組み	
教育推進プログラム(施策の方向)		今後とも計画的に外壁及び屋上防水の改修、吊物設備の改修を実施する。	
事業(施策)概要・計画(目標)		その後、内装及び電気・給排水設備等の改修を行う必要がある。	
地区会館は、市民の一番身近な生涯学習施設として活発に利用されているが、建設より30年以上経過し、外壁・屋上防水の老朽化が進んでおり改修が必要となっている。また災害時の収容避難所となっている地区会館については、耐震化率が100%となっているが、市民会館に関しては、早期に耐震化を図り、安全を確保する必要がある。		市民会館の耐震化についても計画的に実施していく。	
平成29年度工事 ・恵み野会館屋上防水改修工事 ・市民会館大ホール吊物設備改修工事(第2期)		外部評価委員の意見	
予算額(千円)	決算額(千円)	市民会館の耐震化に関しては、国内各地の災害例を見るまでもなく、利用する市民にとって、関心の高い分野。速やかに計画が進行することを期待します。	
38,831	37,843		
自己評価	外部評価		
B	B		

平成30年度(29年度事業)恵庭市教育委員会点検評価報告書

3 継続		所管課 【 教育総務課 】	
事業名(施策)		自己評価	
地区会館防音機能復旧事業の推進		計画の達成状況	
第5期総合計画での区分		今年度は、大町会館のボイラー更新工事および東恵庭会館・寿町会館のボイラー更新設計を行った。	
基本目標	4.人が育ち文化育むまち		
目 標	17.手を取り合い創造性を育む文化芸術		
教育推進プログラム(施策の方向)		課題及び今後の取り組み	
事業(施策)概要・計画(目標)		老朽化による施設運営への影響を未然に防ぐために、老朽化している暖房用ボイラーを計画的に更新していく。	
設置以来、20年程度経過し、老朽化している暖房用ボイラーを計画的に更新し、故障による施設運営への影響を未然に防止する。		外部評価委員の意見	
平成29年度工事 ・大町会館防音機能復旧工事 ・東恵庭会館防音機能復旧設計 ・寿町会館防音機能復旧設計			
予算額(千円)	決算額(千円)	大町会館のボイラー更新工事及び東恵庭会館・寿町会館ボイラーの更新設計を計画通りに行ったことを評価します。今後も暖房用ボイラーの更新など計画的に整備・改修するよう願います。	
17,574	16,735		
自己評価	外部評価		
B	B		

4 継続		所管課 【 教育総務課 】	
事業名(施策)		自己評価	
小・中学校改造事業の推進		計画の達成状況	
第5期総合計画での区分		今年度は、恵み野小学校・恵み野旭小学校及び柏陽中学校のトイレ改修工事、恵み野中学校トイレ改修設計、松恵小学校体育館屋根改修工事、柏陽中学校屋上防水改修工事を行った。	
基本目標	4.人が育ち文化育むまち		
目 標	16.子どもの自立成長を促す学校教育		
教育推進プログラム(施策の方向)		課題及び今後の取り組み	
事業(施策)概要・計画(目標)		今後は緊急性の高い屋根改修やトイレなどの改修を計画的に実施していく。学校施設全体については、長寿命化計画を策定し、大規模な改修を計画的に進める事としていく。	
良好な学習環境を維持するため、施設の中規模改修(トイレ改修・屋根改修)を計画的に実施する。 また、今後は長寿命化計画を策定し、学校施設全体の大規模な改修を計画的に進める事とする。		外部評価委員の意見	
平成29年度工事 ・恵み野小学校トイレ改修工事(2期) ・恵み野旭小学校トイレ改修工事(1期) ・柏陽中学校トイレ改修工事(2期) ・松恵小学校体育館屋根改修工事 ・恵み野中学校トイレ改修設計 ・柏陽中学校屋上防水改修工事			
予算額(千円)	決算額(千円)	トイレの改修工事は、学校の居心地がよい雰囲気づくりに大きな影響を与え、計画を前倒しにしても早急に要求に応えるべきと考えます。また、大規模改修(長寿命化)を視野に入れて、計画を進めるとともに、全体の構想を早めに示されたい。	
218,198	203,238		
自己評価	外部評価		
B	B		

平成30年度(29年度事業)恵庭市教育委員会点検評価報告書

5 継続		所管課 【 教育総務課 】	
事業名(施策)		自己評価	
小・中学校防音機能復旧事業の推進		計画の達成状況	
第5期総合計画での区分		今年度は、柏小学校校舎・講堂、恵明中学校校舎のボイラーの更新工事及び恵庭小学校講堂・若草小学校校舎のボイラー更新設計を行った。	
基本目標	4.人が育ち文化育むまち	工事施工に当たっては事故もなく、計画通り完成に至った。	
目 標	16.子どもの自立成長を促す学校教育	課題及び今後の取り組み	
教育推進プログラム(施策の方向)		老朽化による学校運営への影響を未然に防止するために、老朽化している暖房用ボイラーを計画的に更新していく。アスベスト含有断熱材が含まれている煙突に対しては、計画的に対策工事を進める事とし、ボイラーの更新が同時期にあるものについては、ボイラー改修と共にアスベスト対策工事を進めるものとする。	
事業(施策)概要・計画(目標)		外部評価委員の意見	
設置以来20年程度経過し、老朽化している暖房用ボイラーを計画的に更新し、故障による学校運営への影響を未然に防止する。		柏小学校校舎・講堂、恵明中学校校舎のボイラー更新工事が事故なく計画通り完成し、また二小学校の更新設計も計画通りに進んでいることを讃えます。アスベスト対策工事に関して、環境への影響を十分配慮して工事を進めるようお願いします。	
平成29年度工事・設計			
・恵庭小学校講堂防音機能復旧設計			
・若草小学校(本校舎・増築校舎)防音機能復旧設計			
・柏小学校校舎・講堂防音機能復旧工事			
・恵明中学校校舎防音機能復旧工事			
予算額(千円)	決算額(千円)		
113,015	109,132		
自己評価	外部評価		
B	B		

平成30年度(29年度事業)恵庭市教育委員会点検評価報告書

6 新規		所管課 【 学校教育課 】	
事業名(施策)		自己評価	
学校改善プランに基づく授業の改善・充実		計画の達成状況	
第5期総合計画での区分		<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力テストやNRT検査の分析検証を行い、各校において改善プランを作成し、取り組みを実施した。 ・平成28年度に小中連携教育推進会議を設置し、中学校区を中心としたプロジェクトを立ち上げ、連携教育を出来ることから進めている。 	
基本目標	4.人が育ち文化育むまち		
目 標	16.子どもの自立成長を促す学校教育	課題及び今後の取り組み	
教育推進プログラム(施策の方向)		平成30年度に学力・体力向上推進会議を設置し、各校における改善プランや向上プランの検証を行い、適切な助言指導を行う。	
事業(施策)概要・計画(目標)			
学校改善プランに基づく授業の改善・充実を図り、児童生徒の基礎学力の向上を目指す。 <ul style="list-style-type: none"> ・各校の取組について情報交流 ・小中連携教育を進める 		外部評価委員の意見	
予算額(千円)		決算額(千円)	
5,891		5,751	
自己評価		外部評価	
B		B	

7 新規		所管課 【 学校教育課 】	
事業名(施策)		自己評価	
体力運動能力の向上実践事業		計画の達成状況	
第5期総合計画での区分		<ul style="list-style-type: none"> ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査や、新体力テスト等の実施結果を踏まえ、各校において、改善目的のための体力向上プランを作成、実施している。 ・道教委主催の元気アップチャレンジに参加する学校が増加している 	
基本目標	4.人が育ち文化育むまち		
目 標	16.子どもの自立成長を促す学校教育	課題及び今後の取り組み	
教育推進プログラム(施策の方向)		<ul style="list-style-type: none"> ・各校における取組の支援策 ・外部指導者の活用 ・元気アップチャレンジ全校参加 	
子どもの体力・運動能力の実態把握及びその向上			
事業(施策)概要・計画(目標)		外部評価委員の意見	
各学校において体力運動能力の実態を把握するとともに、各校でテーマを決めた体力づくりを推進し、運動習慣の育成を目指す。 <ul style="list-style-type: none"> ・全国体力・運動能力等調査や新体力テストを用いて全学年の実態を把握する ・体力・運動能力の向上に向けた各学校1実践の推進 		体力テストなどの実施結果をもとに、各学校での体力向上プランの作成に生かす工夫がなされています。さらに、実践事業にも取り組まれており、児童生徒の体力運動能力の向上を、今後大いに期待しております。	
予算額(千円)			
0		0	
自己評価		外部評価	
B		B	

平成30年度(29年度事業)恵庭市教育委員会点検評価報告書

8 新規		所管課 【 学校教育課 】	
事業名(施策)		自己評価	
「まちなか学級」の推進		計画の達成状況	
第5期総合計画での区分		平成28年度から市内各校において、年2回以上の土曜授業の実施を進め、平成29年度は柏陽中学校の10回を最高に、各校2回以上実施した。	
基本目標	4.人が育ち文化育むまち	また、柏小コミュニティスクールにおいて、9月以降ほぼ毎週水曜日に放課後学習を実施した。	
目標	16.子どもの自立成長を促す学校教育	課題及び今後の取り組み	
教育推進プログラム(施策の方向)		30年度以降においても、学校運営協議会(CS)の取組として、土曜授業や放課後学習会を実施していく。地域人材の支援が不可欠であるが、人材確保が課題である。	
地域人材の活用による学校ボランティアの推進		外部評価委員の意見	
事業(施策)概要・計画(目標)		学校での地道な取り組みの効果がでてきて、地域で子どもを育てる意識が市民に受け入れられつつあり好ましいです。今後は、より幅広く人材(ボランティア)の募集など工夫して行うことで取り組みが更に進まれることを期待します。	
・土曜授業・土曜スクールの実施			
・放課後学習会の実施			
・長期休業中に学習会の実施			
予算額(千円)	決算額(千円)		
0	0		
自己評価	外部評価		
B	B		

9 新規		所管課 【 学校教育課 】	
事業名(施策)		自己評価	
道徳の教科化に向けた推進		計画の達成状況	
第5期総合計画での区分		・北海道道徳教育推進校事業実践校(恵み野中学校)による授業公開、実践発表の実施。	
基本目標	4.人が育ち文化育むまち	・北海道版道徳教材「私たち道徳」の活用、校内研修の実施	
目標	16.子どもの自立成長を促す学校教育	・道徳をテーマとした指導主事訪問の実施	
教育推進プログラム(施策の方向)		課題及び今後の取り組み	
心に響く道徳教育の推進		・道徳の評価方法	
事業(施策)概要・計画(目標)		・各校において「道徳」を研究主題とする	
平成30年度から小学校で全面実施となる(中学校は平成31年度から)特別の教科道徳を、円滑に移行する。		外部評価委員の意見	
北海道道徳教育推進校事業の実施		北海道道徳教育推進校での実践が、全市に良い影響を与えることを望んでいます。小学校においても、中心になる学校を指定するなどして、道徳の教科化の推進が進むことや、道徳の「評価」についての研修も深めていただきたいと思います。	
予算額(千円)	決算額(千円)		
251	201		
自己評価	外部評価		
B	B		

平成30年度(29年度事業)恵庭市教育委員会点検評価報告書

10 新規		所管課 【 学校教育課 】	
事業名(施策)		自己評価	
学校運営協議会制度の推進		計画の達成状況	
第5期総合計画での区分		平成29年度から5か年で、市内全小中学校に学校運営協議会を設置することとしており、平成29年度は柏小学校に導入した。	
基本目標	4.人が育ち文化育むまち		
目 標	16.子どもの自立成長を促す学校教育		
教育推進プログラム(施策の方向)		課題及び今後の取り組み	
地域住民の学校運営への参画の推進		平成30年度も予定していた2校(若草小・柏陽中)に合同での学校運営協議会を設置することができ、平成33年度までに計画通り設置を進めていく。 既存のコミュニティスクールを有する地区においては、制度への理解を深めていただき、上手くリンクできるよう、十分な時間をかけていく必要がある。	
事業(施策)概要・計画(目標)		外部評価委員の意見	
保護者や地域住民が学校運営に参画し、地域の力を学校運営に生かす「地域とともにある学校づくり」を目指し、既存組織と連携を図りながら学校運営協議会を市内全校に設置する。		新しいコミュニティスクールの導入に伴って、学校運営協議会を逐次設置することは、好ましいです。計画通りに進むことと、一つ一つの協議会が、その役割を発揮されるよう教育委員会の指導をよろしくお願いします。	
予算額(千円)	決算額(千円)		
150	112		
自己評価	外部評価		
B	B		

11 新規		所管課 【 学校教育課 】	
事業名(施策)		自己評価	
ヒューマン・コミュニケーション授業の推進		計画の達成状況	
第5期総合計画での区分		平成29年度から、子ども家庭課から事業を引き継いで当課にて実施。 柏陽中学校において赤ちゃん登校日授業を延べ8回、児童生徒向けヒューマンコミュニケーション授業を延べ6回、教職員等向け講座を延べ4回実施。	
基本目標	4.人が育ち文化育むまち		
目 標	14.地域で育む子育て環境		
教育推進プログラム(施策の方向)		課題及び今後の取り組み	
言語力の向上と豊かな人間関係を築くコミュニケーション能力の育成		本授業及び講座は、特定の講師に委ねており、今後の展開見通しが立ちづらいことから、後継者となる人材の育成が必要。 平成29・30年度に人材の育成を進めるとともに、各校の教職員が自ら授業が出来るように、研修会等を実施していく。	
事業(施策)概要・計画(目標)		外部評価委員の意見	
児童生徒等が自分自身の生き方や普段の人間関係について、気づき学ぶ「体験学習」型の授業や講座を実施し、思いやりの心やコミュニケーション力の育み、他者と良好な関係を構築する力を高めることを目的とする。 赤ちゃん登校日等、特徴的な授業や講座を小中学校において実施する。		目的や計画は、今日的な教育課題に沿ったものであり評価できます。後継者の発掘や育成など、教育委員会としてのリーダーシップを発揮して推進に努められることを望みます。	
予算額(千円)	決算額(千円)		
2,150	2,162		
自己評価	外部評価		
A	B		

平成30年度(29年度事業)恵庭市教育委員会点検評価報告書

12 新規		所管課 【 教育支援課 】	
事業名(施策)		自己評価	
子どもたちの見守り活動事業		計画の達成状況	
第5期総合計画での区分		①市内各校に年間10回(計130回)派遣し安全指導を実施。 ②関係機関を集め会議を開催し、秋、冬の2回合同点検を実施。 ③事業所登録165件。 ④少年補導員会年6回開催し特別巡回等を実施。生徒指導協議会月1回開催し、意見交換や市内各学校共通のきまりを作成。	
基本目標	4.人が育ち文化育むまち	課題及び今後の取り組み	
目 標	16.子どもの自立成長を促す学校教育		
教育推進プログラム(施策の方向)		上記内容を今後も継続し行う。	
地域との連携による安全安心な地域づくり			
事業(施策)概要・計画(目標)		外部評価委員の意見	
事業概要:学校、家庭、地域が一体となり、地域ぐるみで児童生徒の登下校等における安全の確保を図る。 事業計画: ①通学路の安全指導(スクールガードリーダー) ②恵庭市通学路安全推進会議の開催 ③子どもセーフティーハウスの啓発拡大 ④少年補導員会・生徒指導協議会との連携			
予算額(千円)	決算額(千円)	従前から活動していた事業で、過去の経験が生かされていると考えます。子どもたちにとって、安全安心が何よりなので、更に積極的な活動を期待します。	
2,018	2,000		
自己評価	外部評価		
B	B		

13 新規		所管課 【 教育支援課 】	
事業名(施策)		自己評価	
ネットトラブル未然防止事業		計画の達成状況	
第5期総合計画での区分		①保有状況の実態調査については、未実施。 ②ネットトラブルについて学校で指導を実施。 ③主に生徒指導協議会の教諭を対象に外部講師による講習会を実施 ④学校への情報提供は実施、PTAとの連携は未実施。 ⑤保護者対象の講習会は未実施。リーフレット等を配布。 ⑥ポスター・標語への参加促進は実施。	
基本目標	4.人が育ち文化育むまち	課題及び今後の取り組み	
目 標	16.子どもの自立成長を促す学校教育		
教育推進プログラム(施策の方向)		計画の見直し(アンケート調査・保護者講習会について)	
フィルタリングの利用促進と関係機関と連携を図った有害情報への対応			
事業(施策)概要・計画(目標)		外部評価委員の意見	
事業概要:ネットパトロールの活用やフィルタリングの啓発等により、子どもにとって安心安全なネット環境の整備を図る。 事業計画: ①保有状況調査の実施 ②情報モラルの指導 ③ネットパトロールに関する学校への情報提供 ④学校やPTAなど関係機関と連携した取組の推進 ⑤保護者を対象とした、ネットトラブル未然防止講習会の実施 ⑥ネットトラブル根絶!メッセージコンクールへの参加促			
予算額(千円)	決算額(千円)	親子で話し合っ、解決の方策を考える糸口にするためにも、保護者対象のネットトラブル未然防止講習会等を早期に開催するなどして、学校児童生徒・保護者が繋がりを持って取り組んで欲しいと考えます。	
2,018	2,000		
自己評価	外部評価		
B	B		

14 継続		所管課 【 学校給食センター 】	
事業名(施策)		自己評価	
食物アレルギー対応指針に基づく安全安心な学校給食の対応		計画の達成状況	
第5期総合計画での区分		①衛生管理の徹底 朝昼2回職員の衛生検査と調理作業の点検確認を行った。	
基本目標	4.人が育ち文化育むまち	②地場産食材の活用 米飯は、恵庭産ななつぼし、パン・麺は道内産の小麦を使用。地場産野菜の年間使用量153,512kg(うち恵庭産9,341kg)、年間使用割合7%	
目標	08.夢と健康を育むまち	③食物アレルギー児童・生徒への対応 家庭・学校・センター連携のもと、綿密な確認に努めた。(アレルギー児童・生徒数374名、全生徒数の6.4%)	
教育推進プログラム(施策の方向)		④放射能汚染へ対応 食材の選定は、放射性物質の検査結果や産地情報をもとに行い、その内容はホームページで公表した。	
安全安心な学校給食の充実と栄養教諭を中心とした食育の推進		課題及び今後の取り組み	
事業(施策)概要・計画(目標)		①老朽化した施設・設備及び厨房機器、食器等の改修・更新を、計画的に継続する必要がある。	
計画的な施設・設備、厨房機器の更新整備を行い衛生管理の徹底と職員の健康管理を図り、食中毒の発生や異物混入の未然防止に努め、新鮮で安全・安心な地場産食材の活用を進め、栄養バランスのとれた、よりおいしい給食の提供と食物アレルギー児童・生徒への対応食の充実に努めるとともに放射能汚染に対し万全を期していきたい。		②地場産野菜については、市場価格を勘案しながら、使用の拡大に努めたい。	
《具体的目標》		③アレルギー対応については、保護者や学校現場の意見も取り入れながら、アレルギー対応について見直す必要がある。	
①衛生管理の徹底		④食材の安全性を確認しながら使用に努めたい。	
②地場産食材の活用		外部評価委員の意見	
③食物アレルギー対応食の充実		衛生管理の徹底や地場産食材の活用など、本事業の推進は、長年に涉って大変望ましい取り組みと評価します。今後とも、今日的な課題を一層認識され、食材の安全性の認識やアレルギー対応など、安心安全な学校給食の取り組みを進めていただきたい。	
④放射能汚染対応等安全な食材の使用			
予算額(千円)	決算額(千円)		
270,214	264,622		
自己評価	外部評価		
B	A		

15 継続		所管課 【 学校給食センター 】	
事業名(施策)		自己評価	
学齢期における食育の推進		計画の達成状況	
第5期総合計画での区分		①給食時間・教科における食指導の推進 給食時間の指導は、実態に応じて実施したほか、教科における指導は、小学校では学級別指導を進めたほか、中学校では保健体育や総合学習の時間等で、学級別指導を行った。 ②家庭への情報提供の推進 毎月の給食だよりの裏面を活用し、「食育」に関する情報提供を継続的に実施した。 ③給食試食会、学校給食展の開催 学校給食を理解してもらう機会としての試食会を実施(参加者1,269名)、食育推進月間の6月12日から26日に食育展示を行った。	
基本目標	2.だれもが健康で安全安心に暮らせるまち		
目標	08.夢と健康を育むまち		
教育推進プログラム(施策の方向)		課題及び今後の取り組み	
安全安心な学校給食の充実と栄養教諭を中心とした食育の推進		学齢期における食育の推進は、学校給食を生きた教材として活用しながら、栄養教諭を中核とした教職員による学校での食に関する指導はもとより、家庭や地域との連携、市教委の支援等、推進体制の充実に努めるとともに、「学校給食展」や「給食だより」等による情報提供や地場産食材を活用することにより、生産者や食への感謝と地域の自然や文化、産業の理解を深めるという教育効果が期待される。	
事業(施策)概要・計画(目標)		外部評価委員の意見	
市教委では「恵庭市食育推進計画」のうち、学齢期における食育の推進を担っており、各学校の「食に関する指導の全体計画」に基づき、栄養教諭を中核とした教職員連携による児童・生徒の健康の保持増進や望ましい食習慣を育成するための給食時間を活用し、学校給食を生きた教材とした食に関する指導や教科における指導の充実に努める。 また、家庭に対しては、食育に関する情報の提供に努め、試食会などを開催し、地場産食材を活用した給食メニューの紹介を図りながら食生活の改善と健康増進に寄与する。 《具体的目標》 ①給食時間・教科における食指導の推進 ②家庭への情報提供の推進 ③試食会、食育展示、学校給食展の開催		学校でのきめ細かな食指導の推進や家庭への適切な情報提供に加えて、給食試食会、料理教室、学校給食展等の実施は、学齢期の食育の大切さの理解を一層深めています。学校給食を「生きた教材」として活用され、教育効果を高めていることを讃えます。	
予算額(千円)	決算額(千円)		
0	0		
自己評価	外部評価		
B	A		

平成30年度(29年度事業)恵庭市教育委員会点検評価報告書

16 継続		所管課 【 社会教育課 】	
事業名(施策)		自己評価	
コミュニティ・スクール事業		計画の達成状況	
第5期総合計画での区分		平成29年度	
基本目標	4.人が育ち文化育むまち	恵み野・島松で実施する恵庭版コミュニティスクールの年度計画に沿った支援及び、平成29年度から柏小学校区で導入開始となった文科省型コミュニティ・スクール事業(学校運営協議会)での学校・家庭・地域間協働、若草小・柏陽中学校区にて平成30年度からの導入開始に向けた準備委員会の実施を通し、学校・家庭・地域の理解を深めることができた。	
目 標	16.子どもの自立成長を促す学校教育	課題及び今後の取り組み	
教育推進プログラム(施策の方向)		コミュニティ・スクール(学校運営協議会)の5カ年計画に基づいた計画的な実施に向けて、学校・家庭・地域の理解を進めること。恵庭版コミュニティスクールを実施している恵み野・島松小学校区における学校運営協議会の導入にあたって施策の位置づけを整理し住民へ周知をすると共に理解を進めることが課題である。	
地域と学校が一体となった教育活動の推進		外部評価委員の意見	
事業(施策)概要・計画(目標)		新しい「コミュニティスクール」への対応について、第一歩を踏み出したことを評価します。今後、社会教育の視点だけでなく、文科省の「学校運営協議会」の構想の面から、恵庭版CSの地域で子どもを育てる実践(実績)が役立つ方向で進んでほしいです。	
[ねらい] 保護者や地域の方々が学校運営に参画することにより、学校・家庭・地域社会が一体となってより良い教育の実現に取り組み地域全体の活性化を目指す。			
[目標] 恵庭版コミュニティスクールの継続的な支援に加えて、文部科学省が推進するコミュニティ・スクール(学校運営協議会)をH29年度から全校区に5カ年計画で設置する。			
予算額(千円)	決算額(千円)		
460	379		
自己評価	外部評価		
B	B		

17 継続		所管課 【 社会教育課 】	
事業名(施策)		自己評価	
青少年育成事業の推進		計画の達成状況	
第5期総合計画での区分		平成29年度	
基本目標	4.人が育ち文化育むまち	「青少年育成市民の会」加盟団体に対し、会の年度内事業の実施状況を報告するなど、会の活動に対する関心を深めることで、団体間の連携を深めることに努めた。	
目 標	16.子どもの自立成長を促す学校教育	課題及び今後の取り組み	
教育推進プログラム(施策の方向)		各加盟団体の事業等情報の提供や、人材に関する情報収集などに関する検討・調整が必要。	
地域や企業の青少年育成活動への啓発や支援		外部評価委員の意見	
事業(施策)概要・計画(目標)		「青少年育成市民の会」加盟団体との連携に努めることは、ふるさとに生きる子どもの育成を目指した地域づくりを進めるため、大切なことと考えます。会の活動への関心を深める活動など、計画が着実に推進されることを望みます。	
[ねらい] ふるさとに生きる子どもの育成をめざした地域づくりを進めるため、青少年育成関係団体と連携し、ふるさと教育を推進する。			
[目標] 青少年の健全育成に関わる団体で構成される「青少年育成市民の会」の、各加盟団体の事業・人材の情報等を共有し、団体間の連携を深め、効果的な事業の推進を図る。			
予算額(千円)	決算額(千円)		
79	79		
自己評価	外部評価		
B	B		

平成30年度(29年度事業)恵庭市教育委員会点検評価報告書

18 継続		所管課 【 社会教育課 】	
事業名(施策)		自己評価	
理科の体験学習の推進		計画の達成状況	
第5期総合計画での区分		平成29年度	
基本目標	4.人が育ち文化育むまち	子どもへの多様な体験活動の提供として実施している「恵庭子ども塾」のプログラム「おもしろ理科実験教室」として、1日に午前・午後の2回開催。小学2年～4年生各25名を定員として実施した(午前23名・午後25名)。	
目 標	15.心豊かな思いやりをもった子どもの育成	H29実験:①キラキラフレームを作ろう、②ポップコーンを作って食べよう	
教育推進プログラム(施策の方向)		課題及び今後の取り組み	
理数科への興味・関心を高める事業の推進		毎年人気の高いプログラムであり、希望を断らなければならないほどの申し込みがあることから、平成30年度から年2回に開催を増やすとともに1回あたりの定員も30名に増やして実施する。(計120名予定)	
事業(施策)概要・計画(目標)		また、現在講師を依頼しているボランティア団体との連携・調整、さらには新たな講師の発掘も図る必要がある。	
[ねらい] 子どもが気軽に参加できる理科の実験・観察を開催し、理科学習への興味・関心を高める。		外部評価委員の意見	
[目標] 理科への興味・関心が高まるよう事業内容を工夫し、継続した実施に向けボランティア団体と調整を図る。		子どもたちが、気軽に参加できる理科の観察・実験の場の提供は、参加者も多く、回数も増え、充実した活動が開催できたことを評価します。今後、ボランティア講師の確保や予算面、教室の開催場所等を検討し、更なる活動の充実を期待します。	
予算額(千円)	決算額(千円)		
24	26		
自己評価	外部評価		
B	A		

19 継続		所管課 【 社会教育課 】	
事業名(施策)		自己評価	
通学合宿等の推進		計画の達成状況	
第5期総合計画での区分		平成29年度	
基本目標	4.人が育ち文化育むまち	平成28年度に引き続き、5小学校区で地域住民がそれぞれ主体的に実施した。	
目 標	15.心豊かな思いやりをもった子どもの育成	課題及び今後の取り組み	
教育推進プログラム(施策の方向)		通学合宿支援者の高齢化に伴う世代交代をはかるため、保護者説明会で支援者への参加を呼びかける事や、SNS等を活用した新たな周知・広報手段の模索・検討、中学校との連携強化により通学合宿への参加経験がある児童・父母を始めとした若年層が支援者となる流れの醸成をはかる。	
心を育む体験活動の充実		実施困難地区の実施・再開に向け、コミュニティ・スクールの導入と連動する等を検討し、体験機会の充実を目指す。	
事業(施策)概要・計画(目標)		外部評価委員の意見	
[ねらい] 子どもたちが共同で生活体験することにより、自立心・忍耐力・協調性や社会性を身につけ、子どもたちの生活力の向上を図る。地域住民で実行委員会を組織して運営を進めることにより「地域の子どもは地域で育てる」意識を醸成し、地域の教育力の向上を図る。		通学合宿が、各地区の地域住民の手で独立して継続実施がなされ、良い方向へ進んでいるように思います。この事業の意義を広く大きくPRされ、支援の必要な家庭を含め、より多くの子が参加できるように、行政側の適切な支援・指導をお願いします。	
[目標] 通学合宿未実施地区への働きかけを行うとともに現実実施地区の継続的な運営を進めるための支援を行う。			
予算額(千円)	決算額(千円)		
120	89		
自己評価	外部評価		
A	B		

平成30年度(29年度事業)恵庭市教育委員会点検評価報告書

20 継続		所管課 【 社会教育課 】	
事業名(施策)		自己評価	
郷土芸能の体験学習の推進		計画の達成状況	
第5期総合計画での区分		平成29年度	
基本目標	4.人が育ち文化育むまち	すずらん踊り:小学校4校、中学校1校、6町内会に派遣	
目 標	17.手を取り合い創造性を育む文化芸術	恵庭岳太鼓:小学校1校に派遣したほか、随時体験可能な技術指導を週3日(計148回)実施	
教育推進プログラム(施策の方向)		課題及び今後の取り組み	
ふるさと文化の学びと継承・発展		すずらん踊りDVDの活用やプレゼンテーション機器による踊りの啓発を推進。	
事業(施策)概要・計画(目標)		各小学校区において郷土芸能に取り組むことを目指す。	
「すずらん踊り」「恵庭岳太鼓」等郷土芸能の伝承発展に努め、ふるさとを愛する心を培うために、学校や地域に指導者を派遣し、郷土芸能を紹介するとともに総合的な学習の時間、学校行事等を活用した郷土芸能の体験学習を推進する。		外部評価委員の意見	
予算額(千円)	決算額(千円)	すずらん踊りや恵庭太鼓の人材等の派遣は、「ふるさとえにわ」を愛する心を培う貴重な取り組みです。技術指導の実施など一定の成果を讃えます。DVDの活用やプレゼンテーション機器による啓発を進め、全ての小学校区での取り組みを期待します。	
266	266		
自己評価	外部評価		
B	B		

平成30年度(29年度事業)恵庭市教育委員会点検評価報告書

21 継続		所管課 【 読書推進課 】	
事業名(施策)		自己評価	
ブックステーションの整備		計画の達成状況	
第5期総合計画での区分		黄金ふれあいセンター(H24設置)に続いて、平成28年9月に「恵庭市生涯学習施設かしわのもり」にブックステーションを設置。円滑な運営に努めた。	
基本目標	4.人が育ち文化育むまち	(黄金ふれあい貸出状況)	(かしわのもり貸出状況)
目 標	16.子どもの自立成長を促す学校教育	・利用者数 2,090名 ・貸出冊数 3,355冊 ・開館日数 335日 ・一日平均 10.0人	・利用者数 1,360名 ・貸出冊数 2,917冊 ・開館日数 336日 ・一日平均 8.7人
教育推進プログラム(施策の方向)		課題及び今後の取り組み	
事業(施策)概要・計画(目標)		だれもがいつでもどこでも等しく読書活動に親しむことができるように、図書館から遠い地区等に、ブックステーションを計画的に設置する必要がある。	
○事業概要 図書館サービスの一つとして、公共施設に図書館蔵書の予約・検索・予約図書の受取りができるシステムの配備及び配本・返却機能を有するブックステーションを設置し、市民サービスの充実を図る。		外部評価委員の意見	
○目標 市全域を包括する図書館サービスネットワーク構築の推進を図り、きめ細かい図書館機能の提供を図る。			
予算額(千円)	決算額(千円)		
259	259		
自己評価	外部評価	黄金ふれあいセンターに続いて「かしわのもり」にも設置され、貸出者数をはじめ、貸出冊数や予約冊数が一定の成果を出しており、PR等、関係者の努力を評価します。高齢者が多くなることを踏まえ、今後とも図書館から遠隔の公共施設への計画的な整備を願っています。	
B	B		

22 継続		所管課 【 読書推進課 】	
事業名(施策)		自己評価	
小中学校における図書整備の充実		計画の達成状況	
第5期総合計画での区分		◆ 小学校図書館蔵書冊数(H29年度実績) 81,973冊[児童1人当り21.4冊 *1校当り平均冊数10,247冊 * 学校図書館図書標準 8校全校100%達成	
基本目標	4.人が育ち文化育むまち	◆ 中学校図書館蔵書冊数(H29年度実績) 61,574冊[児童1人当り31.0冊 *1校当り平均冊数12,315冊 * 学校図書館図書標準 5校全校100%達成	
目 標	16.子どもの自立成長を促す学校教育	課題及び今後の取り組み	
教育推進プログラム(施策の方向)		○ 課題 ・学校図書の計画的更新の推進 ・学校図書館の図書標準率100%の継続	
事業(施策)概要・計画(目標)		○ 今後の取り組み ・教科等における学校図書館の効果的活用の促進 ・調べ学習に対応できる図書の計画的な整備	
◇学校図書館の図書整備 ・平成29年度予算額 小学校2,979千円 中学校1,986千円 ・平成29年度決算額 小学校 3,977千円 中学校 2,305千円 * 「子どもの読書活動を支える寄附制度」による追加予算額 小学校 1,000千円 中学校 320千円		外部評価委員の意見	
予算額(千円)	決算額(千円)		
4,965	6,282		
自己評価	外部評価		
B	A	学校の図書館は、子どもが沢山の本に触れられる身近な場所です。恵庭市内小中学校13校全てが標準100%を達成していますが、寄付による予算増も図書整備に大きく関与していると思われます。今後とも計画に基づいて推進されることを期待します。	

平成30年度(29年度事業)恵庭市教育委員会点検評価報告書

23 継続		所管課 【 読書推進課 】	
事業名(施策)		自己評価	
学校図書館活動の推進及び充実		計画の達成状況	
第5期総合計画での区分		<ul style="list-style-type: none"> ・司書教諭、学校司書の研修による情報共有と提供 ＊司書教諭等合同研修会、学校司書研修 各2回実施 ・システムネットワーク及び配本システムによる、図書館と学校間の 図書の利用の共有化と相互貸借の促進 ＊貸出実績 「図書館団体」10,970冊 「学校間貸出」3,542冊 ・調べる学習コンクールの実施 ～ 応募参加者494名 ・年間1人当たり貸出冊数～ 小学校68.2冊 中学校 22.8冊 	
基本目標	4.人が育ち文化育むまち	課題及び今後の取り組み	
目 標	16.子どもの自立成長を促す学校教育		
教育推進プログラム(施策の方向)		<p style="text-align: center;">外部評価委員の意見</p>	
事業(施策)概要・計画(目標)			
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 児童生徒の調べる学習活動の支援と読書活動の 活性化の促進 ○ 学校図書館活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・学校司書の配置 ・学校図書館配本システムの充実 ・教科学習及び調べ学習支援の充実 ・調べる学習コンクールの開催 ・司書教諭及び学校司書等研修会の実施 ○ 学校図書館情報ネットワークの構築 <ul style="list-style-type: none"> ・図書情報及び図書資料の共有化の推進 ○ 図書ボランティアの育成支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア研修会及び交流会の実施 		<p>読書指導に対する市(行政)の対応として、司書教諭等に対する情報を共有しながらの研修は、効果的であると思うので、内容の充実を更に望みます。</p>	
予算額(千円)	決算額(千円)		
28,174	27,908		
自己評価	外部評価		
B	A		

平成30年度(29年度事業)恵庭市教育委員会点検評価報告書

24 継続		所管課 【 郷土資料館 】	
事業名(施策)		自己評価	
地域の遺跡・施設等の教材化と活用		計画の達成状況	
第5期総合計画での区分		○史跡整備に向けて水文環境調査を行い、目標どおり地下水と表流水の現況を把握した。 ○「カリンバ講演会」や「カリンバまつり」、「カリンバ遺跡重要文化財展」などを開催し啓発に努めた。また、読書推進課と共同で行った郷土資料アーカイブ事業においても、各種史跡啓発事業を実施した。 ○史跡の保護、整備の啓発を目的としたごみ拾いと花壇づくりを地域住民やボランティアと共に5月に実施。草刈は業者委託により6月と9月の2回実施。	
基本目標	4.人が育ち文化育むまち	課題及び今後の取り組み	
目 標	17.手を取り合い創造性を育む文化芸術		
教育推進プログラム(施策の方向)		(課題) 財政収支計画等との整合性を図りながら、ガイダンス施設や公園等史跡整備の早期実現を図りたい。 (今後の取り組み) 史跡整備に必要な水文環境調査を引き続き行う。また、史跡の環境整備や各種啓発事業も継続実施する。	
地域の遺跡・施設等の教材化と活用		外部評価委員の意見	
事業(施策)概要・計画(目標)			
(目標) 史跡カリンバ遺跡を市民共有の財産として有効に活用を図りつつ良好な状態で後世に継承するため、H28年3月に「史跡カリンバ遺跡整備基本計画」を策定した。事業の進め方は、ガイダンス施設と環境整備を優先し、基本計画、実施設計そして各種整備を進める方針として第5期総合計画に位置付けをした。		史跡整備に向けた水文調査やカリンバに関する多くのイベント開催が円滑に行われ、喜ばしく思います。ボランティアの高齢化にも配慮しつつ、大きな課題である「ガイダンス施設」や公園の等の史跡整備が計画的に行われることを期待します。	
(事業) ○史跡カリンバ遺跡水文環境調査 ○史跡カリンバ遺跡各種啓発事業実施 ○史跡カリンバ遺跡環境整備			
予算額(千円)	決算額(千円)		
7,062	6,833		
自己評価	外部評価		
A	A		

25 継続		所管課 【 郷土資料館 】	
事業名(施策)		自己評価	
郷土資料館事業の充実		計画の達成状況	
第5期総合計画での区分		○常設展示改修事業:「アイヌモシリ」展示改修 ○展示事業:「川のムシたち～水生昆虫展～」等6件 ○夏休み等体験事業:「化石レプリカづくり」等7件参加者639人 ○観察会:星空観察会 4回 参加者44人 ○ふるさと教育宅配事業:市内8小学校に対し資料30点を4回に分けて巡回貸出し 平成29年度入館者数:7,997人	
基本目標	4.人が育ち文化育むまち	課題及び今後の取り組み	
目 標	17.手を取り合い創造性を育む文化芸術		
教育推進プログラム(施策の方向)		(課題) 約20,000点にのぼる収蔵資料の活用方法と学校教育との連携 (今後の取組み) ・収蔵資料の有効活用を図るため、常設展の計画的な展示替え及び参加しやすい体験学習コーナーの設置。 ・ボランティア団体との協力体制の充実。 ・学校側への情報提供・具体的提案を積極的に行い、学校教育との連携を深める。	
遺跡・施設等を活用した学習の推進		外部評価委員の意見	
事業(施策)概要・計画(目標)			
(目標) 郷土の歴史等に関する資料を収集・保管し、これを展示公開することで、より多くの市民に郷土に対する意識を深めていただくことに貢献する。		ふるさと教育に向けての資料宅配事業は、子どもたちへの興味づけに役立っています。今後、より多くの子どもへの関心を広げるための工夫や実践の積み上げを願っています。	
(事業) ○常設展示室改修事業 ○展示事業 ○体験学習 ○観察会 ○ふるさと教育宅配事業			
予算額(千円)	決算額(千円)		
657	620		
自己評価	外部評価		
B	B		

平成30年度(平成29年度事業)恵庭市教育委員会点検評価一覧

課	番号	新・継	事業名	自己評価	外部評価
教育総務課	1	継	市内小中学校ホームページ統一システム運用	B	B
	2	継	地区会館整備事業の推進	B	B
	3	継	地区会館防音機能復旧事業の推進	B	B
	4	継	小・中学校改造事業の推進	B	B
	5	継	小・中学校防音機能復旧事業の推進	B	B
学校教育課	6	新	学校改善プランに基づく授業の改善・充実	B	B
	7	新	体力運動能力の向上実践事業	B	B
	8	新	「まちなか学級」の推進	B	B
	9	新	道徳の教科化に向けた推進	B	B
	10	新	学校運営協議会制度の推進	B	B
	11	新	ヒューマン・コミュニケーション授業の推進	A	B
教育支援課	12	新	子どもたちの見守り活動事業	B	B
	13	新	ネットトラブル未然防止事業	B	B
給食サービス課	14	継	食物アレルギー対応指針に基づく安全安心な学校給食の対応	B	A
	15	継	学齢期における食育の推進	B	A
社会教育課	16	継	コミュニティ・スクール事業	B	B
	17	継	青少年育成事業の推進	B	B
	18	継	理科の学習体験の推進	B	A
	19	継	通学合宿等の推進	A	B
	20	継	郷土芸能の学習体験の推進	B	B
読書推進課	21	継	ブックステーションの整備	B	B
	22	継	小中学校における図書整備の充実	B	A
	23	継	学校図書館活動の推進及び充実	B	A
郷土資料館	24	継	地域の遺跡・施設等の教材化と活用	A	A
	25	継	郷土資料館事業の充実	B	B